

2020年 1月 29日

学位論文審査並びに最終試験結果報告書

大学院歯学研究科長 古市保志殿

主査 谷村明彦

副査 古市保志

副査 石井久淑



今般 Nattakarn Hosiriluck にかかわる学位論文審査並びに最終試験を行い下記の結果を得たので報告する。

記

1 学位論文題目

Profiling and Analysis of Extracellular Matrix and Related Gene Expression in Human Periodontal Ligament Tissue and Fibroblasts

- | | |
|-------------|------------|
| 2 論文要旨 | 別添 |
| 3 学位論文審査の要旨 | 別添（様式第12号） |
| 4 最終試験の要旨 | 別添（様式第13号） |

以上の結果 Nattakarn Hosiriluck は博士（歯学）の学位を授与する資格のあるものと判定する。

学位論文審査の要旨

主査 谷村明彦
副査 古市保志
副査 石井久淑



氏 名 Nattakarn Hosiriluck

学位論文題目 Profiling and Analysis of Extracellular Matrix and Related Gene Expression in Human Periodontal Ligament Tissue and Fibroblasts

以下本文（15行目から1000字以内）

この研究は歯根膜組織の再生を目指しており、CAGE解析データを用いて歯根膜組織や歯根膜由来線維芽細胞に発現する遺伝子のプロファイリングを行った研究である。この研究によって歯根膜組織には、コラーゲンのtypes I, III, VI, V, XII、非コラーゲンタンパク質としてperiostin, osteonectin, proteoglycans、およびasporin, lumican, decorin, and osteomodulinの4つのプロテオグリカンが多く発現することが明らかになった。

また歯根膜組織や歯根膜由来線維芽細胞に発現する遺伝子プロファイリングの比較によって、歯根膜由来線維芽細胞では、tenascin-N, osteopontin, osteocalcin, osteomodulin, asporin, periostinの発現が著しく低下することが明らかになった。またosteopontinとperiostinに遺伝的な多様性が存在することが明らかになった。これらの結果は、今後の歯根膜再生に向けた研究の重要な情報になると考えられる。

論文審査においては、歯根膜組織に発現する遺伝子の役割や他の組織との比較を考察に加えることや、図表の表示方法についてのコメントがあり、コメントに従って適切に修正された。また英文法や参考文献に対するコメントに対しても適切に修正された。そして最終的に、主査・副査は、その内容を高く評価し、学位論文としてふさわしいと判断した。

様式第13号（第5条・第13条関係）

最終試験（学力の確認）の要旨

主査 谷村明彦

副査 古市保志

副査 石井久淑



氏 名 Nattakarn Hosiriluck

以下本文（10行目から200字以内）

2019年12月2日に、主査、2名の副査と本人との間で、提出された学位論文について議論を行なった。その際には、主査・副査の質問に対して申請者から適切な回答・説明がなされた。また再提出された論文において、指摘した内容が適切に修正されており、申請者が議論の内容を十分理解できていたと判断される。従って、Nattakarn Hosiriluck は、学位を授与するのに十分な学力を有していると判断される。